

# R-2-5 当院におけるがん家族歴聴取の調査

原田 智可<sup>1)</sup>、光石 はつみ<sup>1)</sup>、宮地 宏昭<sup>1)</sup>、吉武 真由子<sup>1)</sup>、森 大輔<sup>1)</sup>  
佐賀県医療センター-好生館<sup>1)</sup>

日本がん登録協議会  
第31回学術集会

COI開示

筆頭演者名：原田 智可

当演題発表に関し開示すべきCOIはありません

## 目的

検診受診率  
30.5%減<sup>※1</sup>

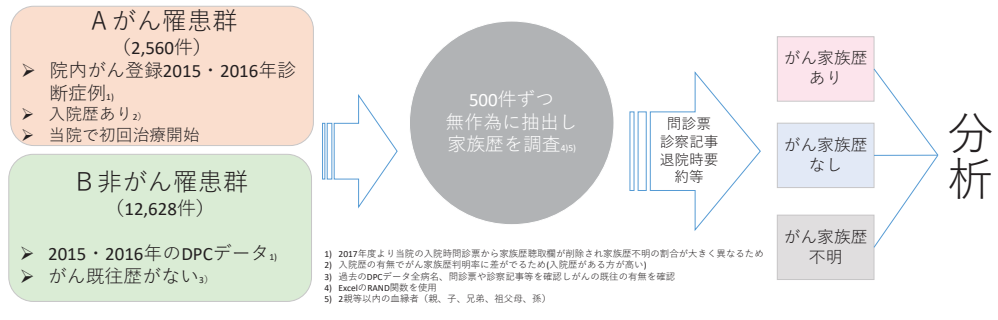
当院の院内がん登録件数  
11%減<sup>※2</sup>

- ▶ 約1万件のがんが未発見である可能性<sup>※3</sup>
- ▶ 検診施設や医療機関への受診控えの可能性

検診・受診の新たな動機づけを行うことが可能であるか、がん家族歴とがん罹患の関係性について調査した

※1 日本対がん協会が実施する検診の受診率  
※2 2020年診断、初回治療開始症例数を2019年と比した場合  
※3 日本対がん協会により公表されたデータに基づく

## 方法



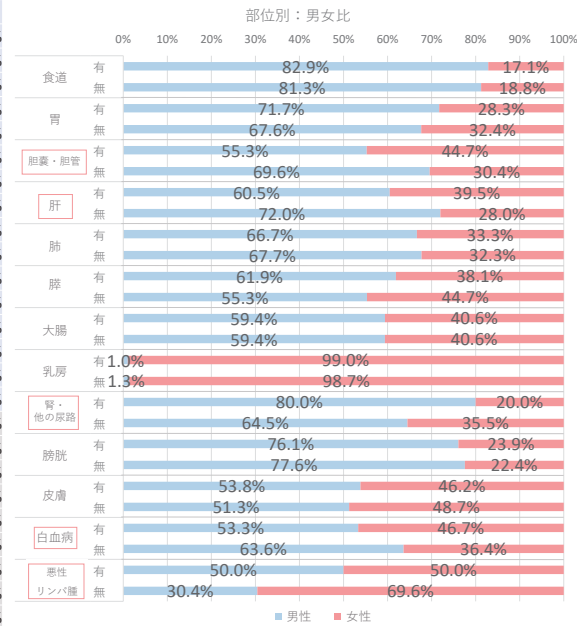
- 1) 2017年度より当院の入院時問診票から家族歴聴取欄が削除され家族歴不明の割合が大きくなるため
- 2) 入院歴の有無でがん家族歴判明率に差がでるため(入院歴がある方が高い)
- 3) 患者のDPCデータ含有率、問診票や診察記事等を確認しがんの既往の有無を確認
- 4) ExcelのRAND関数を使用
- 5) 2親等以内の血縁者(親、子、兄弟、祖父母、孫)

## 結果

	がん家族歴あり	がん家族歴なし	不明	総計	χ <sup>2</sup> 乗値	42.899
A がん罹患群	276 (55.2%)	212 (42.4%)	12 (2.4%)	500	p値 <sup>※2</sup>	<0.0001
B 非がん罹患群	174 (34.8%)	314 (62.8%)	12 (2.4%)	500	リスク比	1.58

有意差あり!

部位別 <sup>※1</sup>	家族歴有	家族歴無	不明
子宮体部	65.9%	29.5%	4.5%
悪性リンパ腫	64.8%	31.0%	4.2%
食道	63.6%	29.1%	7.3%
胃	62.0%	34.7%	3.3%
胆嚢・胆管	61.3%	37.1%	1.6%
肝	60.4%	37.3%	2.2%
肺	56.9%	41.8%	1.3%
白血病	56.6%	41.5%	1.9%
膵	56.4%	42.7%	0.9%
大腸	55.8%	41.4%	2.9%
乳房	55.1%	42.0%	2.8%
子宮頸部	52.8%	47.2%	0.0%
腎・他の尿路	51.5%	45.6%	2.9%
膀胱	46.9%	50.0%	3.1%
前立腺	45.7%	51.4%	2.9%
皮膚	35.8%	55.2%	9.0%
卵巣	57.9%	42.1%	0.0%
口腔・咽頭	75.0%	25.0%	0.0%
喉頭	33.3%	33.3%	33.3%
甲状腺	75.0%	16.7%	8.3%
骨・軟骨	50.0%	50.0%	0.0%
その他	65.2%	30.4%	4.3%
他の造血器腫瘍	70.0%	30.0%	0.0%
多発性骨髄腫	33.3%	55.6%	11.1%
脳・中枢神経	83.3%	16.7%	0.0%



- 主要5部位\*ががん家族歴有の割合が60%を超えている部位についてその組織型の内訳
- 上位3項目を右下表にて示す
- がんが多数のため省略
- ※1 有症がん研究センター-全国集計より部位分類コード対応表を元に分類
- ※2 有意水準は5%、自由度は2
- ※3 2015年、2016年登録時のルールにて登録を行っており現在の登録ルールとは異なる場合あり

組織型内訳 <sup>※3</sup>				
子宮体部	悪性リンパ腫	食道	胃	
類内膜腺癌、G1 41%	DLBCL 38%	扁平上皮癌、NOS 54%	高分化管状腺癌 31%	
類内膜腺癌、G2 35%	濾胞性リンパ腫、G1 11%	中分化扁平上皮癌 31%	低分化腺癌 30%	
-	MALTリンパ腫 11%	-	中分化管状腺癌 26%	
胆嚢・胆管	肝	肺	大腸	乳房
中分化管状腺癌 26%	肝細胞癌、NOS 53%	腺癌、NOS 28%	中分化管状腺癌 51%	浸潤性乳管癌(硬性型) 4%
高分化管状腺癌 18%	中分化肝細胞癌 21%	扁平上皮癌、NOS 13%	腺癌内癌(上皮内癌) 19%	浸潤性乳管癌(充塞型) 19%
腺癌、NOS 16%	-	小細胞癌 10%	高分化管状腺癌 13%	DCIS 10%

## 結論(まとめ)

- ✓ がん家族歴とがん罹患には一定の関連があり、Aがん罹患群はB非がん罹患群よりも約1.6倍がん罹患のリスクが高いことが分かった
- ✓ がん家族歴の有無は、部位別の男女比で胆嚢・胆管や肝、造血器腫瘍、腎・他の尿路系に大きな差があった
- ✓ 組織型の割合に大きな偏りや特徴は無かった
- ✓ 本調査は患者の自己申告による部分が大半を占めるため調査内容の真偽についての確認は出来ない

がん罹患は喫煙や飲酒、生活習慣など様々な要因が関係しておりそれら避けること、また2親等以内の血縁者にがん罹患者がいる場合には早期発見、早期治療につながるためにも積極的な検診への受診が勧められる